

第8回「日本語体験コンテスト in ヤンゴン」

実施報告書



<後列左より>梅村様 (ERIN 日本語センター)、THU ZAR WIN THU 様(オハイオ日本語教育センター)、NYI NYI HTWE 様(AIRISU 日本語学校)、SAM HLA PHYU 様(AIRISU 日本語学校)、THIN AYE AYE KO 様 (ティンミャンマー日本語学校)、坂上審査委員、北原審査委員長、菊川実行委員長、古賀一等書記官(在ミャンマー日本国大使館)、尹様(ANA ヤンゴン支店)、佐藤様(Japan Foundation 国際交流基金)、市川様(WIN 日本語学校)、小林様(Myanmar DCR)、村松実行副委員長

<前列左より>入賞者 5 名：PHYO SANDY HTWE、MYAT NAY CHI TUN、MYAT EAINDRAY MOE、CHAW BA YA NI、SU MYAT

- 【開催日】 2018年8月25日(土) 予選会 12:00～ 本選会 14:00～
- 【会場】 NOVOTEL YANGON MAX
- 【主催】 一般財団法人 共立国際交流奨学財団
- 【現地運営団体】 MOMIJI 日本語センター
- 【後援】 日本国文部科学省
在ミャンマー日本国大使館
全日本空輸株式会社ヤンゴン支店
- 【協賛】 株式会社 共立メンテナンス
- 【協力団体】 オハイオ日本語教育センター
ERIN 日本語センター
AIRISU 日本語学校
ティンミャンマー日本語学校
Japan Foundation 国際交流基金
WIN 日本語学校
Myanmar DCR

<総評>

2011 年より始まった「日本語体験コンテスト in ヤンゴン」は今年で第 8 回目を迎えました。「第 8 回日本語体験コンテスト in ヤンゴン」は 8 月 25 日(土)、ミャンマー・ヤンゴン市 NOVOTEL YANGON MAX にて開催されました。他団体のスピーチコンテストと重複した開催にもかかわらず、応募者 59 名中 48 名にお越しいただきました。

一次予選会では、日本の地理、政治、経済、文化、文学、社会、流行など幅広い分野から、聞き取り問題 30 問が出題されました。

そして、予選会を通過した 16 名が、本選会の 3 分間即興スピーチに進みました。

今年のスピーチは、

①あなたが日本語を勉強していて難しいと感じる文法(もしくは表現)は何ですか。具体的な理由や例を挙げて、話してください。

②あなたが日本語を勉強しようと思ったきっかけは何ですか。エピソードを交えて話してください。

③あなたの国と日本の文化・習慣で、大きく違う点は何だと思えますか。具体的な理由や例を挙げて、話してください。この 3 つのテーマから 1 つを選択し、5 分間のシンキングタイムの後、3 分間の即興スピーチをしていただきました。

本選会出場者は①のテーマを 2 名、②のテーマを 9 名、③のテーマを 5 名の方が選択しました。

スピーチ内容としては、アニメやマンガをきっかけに日本語を学んだという方が多かったです。ただ、マンガが面白い、楽しいという感情のみならず、「辛いときの支えになった」や、「日本のアニメを見て、夢ができた」等、マンガやアニメに出会い、価値観や考え方が変わったと話す方も多数いました。中には日系企業で働いていたという方もおり、日本人と接して身をもって感じたことや、文化の違いを話してくれた方もいました。

本選会は会場を大ホールへ移し、後ろの席まで埋まる程の見学者や応援の観客で、大盛況でした。

そして、審査委員 3 名による審査の結果、5 名が入賞し、実行委員長より賞状と賞品目録を授与されました。入賞賞品として、2019 年 1 月 20 日(日)～1 月 27 日(日)(7 泊 8 日機内泊 1 泊)の日程で、日本体験旅行に参加してもらいます。

この日本体験旅行を通じて、日本の良さを身をもって感じ、日本留学を志していただきたいと思います。そして将来、両国の発展に大きく貢献する人材となることを願っております。

<実施報告>

■ 予選会

予選会	12:05～	開会の辞・注意事項説明
	12:10～	予選（日本語聞き取り問題 30 問）

日本の地理、政治、経済、文化、文学、社会、流行などについての聞き取り問題 30 問



注意事項説明の様子



応募総数 59 名中、48 名が参加
一次予選(聞き取り問題)に挑戦

成績上位者 16 名が本選会へと出場しました！

■ 本選会

本選会	14:00～	予選通過者発表
	14:10～	開会の辞・審査委員紹介・注意事項説明
	14:20～14:25	シンキングタイム
	14:25～	スピーチ



3 分間の即興スピーチの後、審査委員からの質問に答えます。

■ 表彰式

表彰式	16:00～	「夢・日本体験賞」発表(5名)
-----	--------	-----------------

<式次第>

- 一、開会の辞
- 一、実行委員長挨拶
- 一、来賓挨拶
- 一、審査委員長講評
- 一、賞状授与
- 一、閉会の辞

<実行委員長 挨拶>



<来賓 挨拶>



在ミャンマー日本国大使館
一等書記官 古賀 俊行様



ANA ヤンゴン支店
アシスタントマネージャー 尹 聖玲様

<審査委員長>



北原審査委員長

<審査委員 講評>



坂上審査委員

<賞状授与>



入賞者 5 名に菊川実行委員長より
賞状と目録が授与されました。

<奨励賞授与>



北原審査委員長より
一次予選通過者 11 名に
奨励賞が授与されました。

入賞賞品 『夢・日本体験賞』



氏名	日本語学校	大学
ピョー サンディ トウエ PHYO SANDY HTWE	MOMIJI 日本語センター	ヤンゴン外国語大学
チョウ バ ヤ ニ CHAW BA YA NI	AIRISU 日本語学校	ヤンゴン外国語大学
ミヤ エインドレイ モー MYAT EAINDRAY MOE	AIRISU 日本語学校	ヤンゴン外国語大学
ミヤツ ネイ チ トーン MYAT NAY CHI TUN	ヤマト日本語センター	ヤンゴン大学
ス ミヤツ SU MYAT	ERIN 日本語センター	西ヤンゴン大学

入賞者 5 名には、『夢・日本体験賞』(7 泊 8 日の日本体験旅行)を贈呈致しました。



シンキングタイムの様子



本選会場の様子

昨年の入賞者も応援に駆けつけてくれました！
現在は日本の建築会社のヤンゴン支店で働いています。

日本体験旅行に参加できたソーユナダーと申します。今は大学3年生で英語を勉強しています。20歳です。体験旅行参加したときは2年生で初めて外国に行くようになりました。それは共立国際交流奨学財団のおかげさまで、あこがれていたANA飛行機で夢の日本へ行くことでした。

本日私は一寸房ミャンマー支店で管理をやっています。本社は札幌にあります。この会社には若者たちの成長を目指して仲良く一緒に頑張っています。まだ年齢を見ると若いといわれるかもしれませんが、自分があこがれる主人公みたいに続けて頑張ったらきっと夢のところまで行けると信じています。

皆さんも頑張ったらできるという気持ちをもってこの日本語コンテストに参加してみてください。きっと自分が知らない世界を見れます。

(※本人の文章をそのまま掲載しています。)



2017年度入賞者
ソーユナダーさん

< 講評 >



審査委員 坂上 綾

学校法人 共立育英会 共立日本語学院 専任教員

今回、8回目となる日本語体験コンテストがヤンゴンで行われ、たくさんの方にご参加いただきました。予選会の問題は出題範囲が多岐に渡り、普段から日本に相当な興味を持っていなければ、難しい問題でしたが、16名の方が見事本選会へと進まれました。

本選会での皆さんのスピーチはどれもレベルが高く、日本や日本語への情熱が伝わるもので、楽しく聞かせていただきました。スピーチのテーマは抽象的で、難しいものでしたが、5分という短いシンキングタイムの中、うまく自らの経験や具体的エピソードを交え、オリジナリティ溢れるスピーチになっていたと思います。気持ちのこもった発表に、聞きながら、笑ったり、胸を打たれたりするような場面が何度もあり、時間があっという間に過ぎていきました。

特に8名の方が選んだ「日本とミャンマーの文化の違い」についてのスピーチでは日本のことはもちろん、自国の文化についてもしっかり分析し、発表されていました。よく異文化を知るには、自国の文化を知ることが大事だと言いますが、そういった意味で今回参加された方は皆さん日本とミャンマーとの架け橋になる存在だと感じました。

スピーチでは言葉の使い方や構成の他に、いかに聞き手に伝えるかが大切です。参加者の中には発音がもう一歩で、せっかく考えた内容を伝えきれなかった方もいました。今後日本語の音声にふれる機会を増やし、皆さんのスピーチが一層良いものになるよう期待しています。

どのスピーチも甲乙つけがたく、審査には大変頭を悩ませました。今回接戦を勝ち抜き、入賞された方は日本体験旅行を通して、さらに日本への理解を深めていただければと思います。来年も是非たくさんの方にご参加いただき、これからの日本語体験コンテスト、並びにミャンマーでの日本語学習がますます発展していくことを心から願っています。